

第14回カプセル内視鏡学会学術集会合同セッション
「小腸疾患の診断と治療の最前線」

司会 山本 博徳（自治医科大学内科学講座）
塩谷 昭子（川崎医科大学消化管内科学）

カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡の登場により全小腸への内視鏡到達が可能となり、小腸疾患の診断は大きく進歩した。さらに小腸の血管性病変、腫瘍性病変、狭窄病変に対する内視鏡治療が可能となっている。また腹部超音波、MRIおよびCTなどの画像診断は、低侵襲で管外の情報も得られる利点があり、本邦では広く普及している重要な検査手段である。一方で、様々な解析技術および治療に進歩が見られたにもかかわらず、多くの小腸疾患において診断および治療のストラテジーがまだ十分に確立されていない。本合同セッションでは、種々の小腸疾患に対する検査の診断精度および有用性向上へのアプローチおよび安全かつ有効な内視鏡治療法に関する演題を広く公募する。